

けがや事故が占める割合

セーフコミュニティは、「けがや事故」を予防することを目的としている。

人口動態統計によると、9割以上が病気による死亡である。

けがや事故が要因で亡くなる方の割合は、増減を繰り返し、横ばいで推移している。

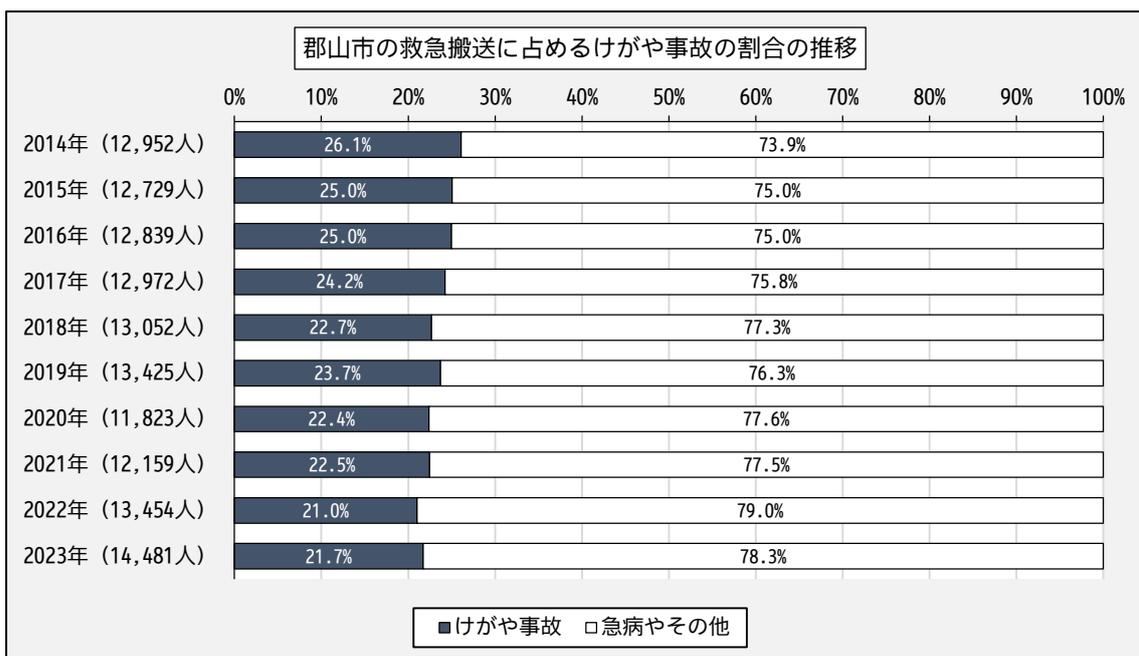


(備考) 1 「人口動態統計」（厚生労働省）を加工して作成

- 2 「けがや事故」は死因（死因簡単分類）のうち、「不慮の事故（交通事故、転倒・転落・墜落、不慮の溺死及び溺水、不慮の窒息、煙、火及び火災への曝露、有害物質による不慮の中毒及び有害物質への曝露、その他の不慮の事故）」、「自殺」、「他殺」、「その他の外因」を合わせたもの

救急搬送データによると、7割以上が急病やその他による救急搬送要因となっている。

けがや事故による救急搬送の割合は、増減を繰り返しながらも、2014年に比べ2023年は減少している。



(備考) 1 「救急搬送データ（国表）」（郡山地方広域消防組合）を加工して作成

- 2 「けがや事故」は事故種別（傷基本）名のうち、「交通事故、一般負傷、自損行為、労働災害、加害、運動競技、火災、水難、自然災害」を合わせたもの